

令和5年度 地区会報告

I 北海道地区・東北地区

【北海道地区会】

日時

令和5年9月11日
～9月14日

参加者

札幌校：花輪、李
旭川校：岩永、大石、
南部、馬場
釧路校：佐々木、富田、福
江
函館校：橋本
岩見沢校：伊藤、大西、倉重、
佐々木、酒井、末
次、土井、羽子田、
船岳、三浦、三橋、
山内、竹田（敬称
略）

■協議事項

1. 令和7年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、令和7～8年度の地区全国委員・地区全国理事について、岩見沢校の担当が調整中であり、了承された。

年度	地区全国委員・地区全国理事	
R2	竹田（岩見沢）	福江（釧路）
R3	佐々木（岩見沢）	福江（釧路）
R4	佐々木（岩見沢）	李（札幌）
R5	伊藤（岩見沢）	李（札幌）
R6	伊藤（岩見沢）	大石（旭川）
R7	未定	大石（旭川）
R8	未定	

2. 令和8年度の北海道教育大学（担当校）での開催について

令和6年度に議論することとした。

■報告事項

1. 新任教員のあいさつ1・・・令和5年度着任

・旭川校 デザイン 馬場拓也先生

旭川校美術分野デザイン講師として着任いたしました馬場拓也と申します。素材として木が好きなおことあり、木製家具五大産地の一つである旭川（上川地域）で働けることを嬉しく思います。学びに対する姿勢や可能性を見出す思考力、頑張りきれる胆力、そして負けず嫌いな学生たちがおり、自身にとって大変刺激になる環境に身を置くことができ、より一層精進して参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

・岩見沢校 デザイン 酒井秀治先生

岩見沢校美術文化専攻、まちづくりデザイン研究室の准教授として着任した酒井秀治です。

大学院を修了後、これまで民間のコンサルタントで都心部の再開発や広場づくり、公共空間のリノベーションによるサロン・カフェづくりなど建築、空間、コミュニティデザインの現場に携わってきました。今後、大学教育と具体的なまちづくりプロジェクトを結び付け、学生が多様な人と関係し、もまれながら当事者として学ぶ実践的な教育・研究の場を広げていきたいと思っております。また、ビル屋上での養蜂を通じて地域資源を活用した商品開発、子どもたちの環境教育につながる市民活動も主宰しています。キャンパスにミツバチが飛ぶ環境を創り、大学地域連携のコンテンツに育てていきたいです。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2. 理事会からの連絡事項伝達

- ・登録メールアドレス確認のお願い
- ・参加の呼びかけ

■その他

- ・第62回大学美術教育学会香川大会が令和5年9月23日（土）・24日（日）で開催の予定である。
- ・各校からの報告事項（情報交換）＊別添資料

作成者： 北海道教育大学札幌校 李知恩

【東北地区会】

日時

令和5年6月23日（金）
13:30～16:30
協議会
6月24日（土）9:
30～12:00（自
主研修）

場所

宮城教育大学 美術棟内
美術教育演習室
対面ベースによる、オンラ

■協議事項

1. 東北地区会規程の規約に基づく徴収金について

福島大学より提案。これまでの規定「年会費は、各大学専任教員1名当たり2,000円とし、定例総会の当日当番大学へ納入する。」についての取り扱いが了承された。

COVID-19によるZoom会議での開催に伴い、近年では徴収金の集金について見合わせていたが、本年9月開催の全国大会香川大会での理事会の対面開催と決定したため、東北

二部会の当番大学の宮城教育大学が各大学から徴収された金額を預かり、その徴収金を全国理事会へ参加する2023年度東北地区代表の福島大学教員と、2024年度代表の山形大学教員へ配分することになった。

■報告事項（各大学の現状、情報共有など）

1. 入試状況入試体制について

各大学から資料に基づき、試験実施の概要、募集人員、合格者人数等についての報告があった。美術分野の現況と、美術免許（中・高）

イン併用 (zoom) のハイブリット形式

参加者

全 15 名

弘前大学：佐藤 絵里子

岩手大学：和田 学

zoom 参加：金沢 文緒

溝口 昭彦

福島大学：渡邊 晃

zoom 参加：新井 浩

加藤 奈保子

山形大学：具志堅 裕

zoom 参加：廖 曦彤

秋田大学：長瀬 達也

宮城教育大学：村上 タカン

安彦 文平

虎尾 裕

維持の方法、小学校、中学校免許を取り易くするための方策が検討されていることなど、少子化を見据えた美術教員採用数の減少が予想されることを念頭に、各大学のさらなる方策が必要との認識を共有した。

2. 東北地区の教員養成機能再編性に関する動向や情報、及び共同教職課程の設置の進捗状況、美術系教員の配置について

(1) 概ね各大学から、教員養成再編の動向にかんする進展は特にないと報告された。

(2) 宮城教育大学から、東北地区における、芸術体育・生活系教育の教育体制の現状と今後の動向について、現在進行している技術、家庭科教育の免許取得について報告された。

3. 今後の小学校教員養成の展望について

各大学から資料に基づき、小学校教員養成の現状と今後の方向性等について報告があった。

4. 卒業要件による免許取得と実際の教員採用の関係について (効果・課題)

各大学から資料に基づき、免許取得と卒業要件、副免許取得等についての関連、並びに、教員採用に関連した効果的対策などについて報告された。

5. 学生の就職状況について

各大学から資料に基づき、就職状況について報告された。

6. 専任教員の削減をうけての美術関連施設の維持状況について

各大学から、教員削減に伴う施設の縮小化などの報告があった。

7. 教員免許状更新講習に代わる取り組みについて

各大学から、昨年度以降、それほどの進展がない旨について報告があった。若干、代替措置にて対処している例も報告された。

8. コロナ後のオンライン授業についての大学の方針と実施状況について

各大学から、現時点の授業開講の体制等について報告があった。

9. オープンキャンパスの開催方法について

山形大学から資料に基づき報告があり、各大学からも現状の報告があった。

10. 各大学の卒業制作展の状況について

各大学から、現在の卒展開催と費用面等について報告があった。

11. 2023 年度美術科教育学会弘前大会について

弘前大学から報告があった。

■その他

特になし

作成者：福島大学 渡邊 晃一

II 関東地区

【関東地区会】

日時

令和 5 年 7 月 8 日 (土)

13 : 30 ~ 15 : 00

場所

宇都宮大学

(Zoom での遠隔会議)

出席者 全 32 名

東京学芸大学

鉄矢悦朗 相田隆司 朝

野浩行 石井壽郎 笠原

広一 清野泰行 西村徳

行 速水敬一郎 古瀬政

弘 正木賢一

横浜国立大学

原口健一 渡辺邦夫

千葉大学 神野真吾

小橋暁子 佐藤真帆

■協議事項

1. 生成 AI の活用について

東京学芸大学の提起により、生成 AI の活用について今日的諸課題を含む案件として協議された。これを受け、宇都宮大学から大学院生によるフラクタル生成 AI の研究活用事例が紹介された。茨城大学からは工芸での活用例が示された。また、宇都宮大学より、今年度の全国大会での関連テーマが案内された。

2. 「関東地区会議事 承合事項」の目的再確認

千葉大学より、承合事項のあり方の再確認について、今後の運営のためとして協議の趣旨説明があった。東京学芸大学から、毎年、固定のテーマ三種程度を扱い、各大学の状況の推移を確認する案が出された。また、群馬大学から各大学の美術教育の特徴的な取り組みの紹介と共有を行うことの意義が述べられ、

各大学に確認された。

■報告事項 (各大学の現状、新規入退会者、情報共有など)

1. 各大学の現状と情報共有

「関東地区会議事 承合事項」として、以下の①から⑧の項目について現状報告と共有、意見交換が行われた。

①入試関連：入試倍率の低下、出題内容、高校訪問の実施等

②授業関連：アフターコロナにおける授業の変化や取り組み

③ゼロ免課程

④附属学校園との連携

⑤美術科 (専攻、分野) における研究や教育成果の発信方法

⑥学生の進路と教員採用数増加のための各大

茨城大学	片口直樹
向野康江	小口あや
宇都宮大学	
株田昌彦	松島さくら子
梶原良成	本田悟郎
群馬大学	齋江貴志
市川寛也	郡司明子
山梨大学	栗田真司
埼玉大学	
平野英史	内田裕子
小澤基弘	高須賀昌志
筑波大学	
石崎和宏	仏山輝美

- 学の取り組み
- ⑦各大学の教員定員や削減状況、課程認定におけるダブルカウント
- ⑧次年度関東地区会オンライン開催予定の報告と今後の関東地区会開催方法について

2. 新規入退会者

- [入会]
- 平野英史（埼玉大学）
- [退会]
- 宮里明人（東京学芸大学）
- 後藤雅宣（千葉大学）
- 宮崎甲（千葉大学）
- 島田裕之（茨城大学）

池内慈朗（埼玉大学）

■その他

1. 全国大会関東地区開催時の次回担当大学の確認

作成者：宇都宮大学 本田悟郎

III 北陸地区・東海地区

【北陸地区会】

日時

令和5年6月30日（金）：
15:00～17:00

場所

福井大学：文京キャンパス
教育3号館3階＋オンライン（Zoom：福井大学）

出席者 全15名（敬称略）

金沢大学：大村雅章
江藤望
鷲山靖
池上貴之（ol）

富山大学：隅敦
上山輝（ol）

上越教育大学：松尾大介
五十嵐史帆（ol）
伊藤将和（ol）
兪期天（ol）

信州大学：大島賢一（ol）

新潟大学：永吉秀司（ol）

福井大学：湊七雄
小笠原文
坂本太郎（ol）

■協議事項

1. 令和4年度事業計画と会計予算

1. 大学教員の人員削減に伴う、各大学の対応について

大学生人口が減少傾向にある地方国立大学の在り方について意見交換を行った。共同課程でコンパクトにするなどの解決法が実施される中、実技系授業が中心となる美術講座では対応が容易ではないことが指摘された。その中で、宇都宮大学と群馬大学の共同課程において彫刻のオンライン授業を成功させているという報告に関心が寄せられた。一方で、実技をオンラインで行うための専用設備の充実など他大学が簡単に参考にはできないハード部分も確認された。今後もSTEAM教育における美術教育の必要性などを伝え、教育大学の教育課程の中での美術教育の立場・役割を再度確立していくべきであるという共通認識を得た。

2. 心身の不調などで、合理的配慮を必要とする学生対応について

各大学における支援体制が報告された。学生本人の意思や判断で申請し、合理的配慮がなされるため、自ら申請ができない（あるいはしない）学生に支援が行き届かないことが共通の問題点として認識された。

3. 2024年（令和6年度）の全国大会の運営（北陸地区：金沢大学）について

学会副総務局長の松尾先生（上越教育大学）の説明に沿って、以下のことが確認された。

- (1) 金沢大学から2024年9月14日（土）、15日（日）を開催の希望日として学会理事会に報告することが確認された。また、全国大会開催に向け、北陸地区会所属の教員に協力の依頼がなされた。2024年9月13日（金）に準備＋各種会議＋北陸2部会の開催予定が決定された。
- (2) 以下の点が大会開催における考慮点にあることが確認された。
- ・ポスター発表開催の有無・学生会議の取り扱い・懇親会開催の有無＆開催の場合はその企画
 - ・発表資料集について・大会参加者及び発表者を増やすための工夫
- (3) 大会企画（シンポジウム）については主催大学（金沢大学）が提案する。企画運営に関して、北陸地区大学の協力が必要であることが確認された。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

1. 令和4年度事業報告・会計報告

北陸地区運営費には美術部門に35,000円の予算が充てられているが、コロナ禍で事務経費がかからないことを想定して令和4年度の予算は3,000円計上された。結果的に3000円は使用することなく、令和4年度の使用費用は0円であったことが報告された。

2. 新理事・新委員の選出

令和5・6年を福井大学の小笠原が担当することです承を得た。
令和6・7年についても併せて選出し、富山

大学の上山輝先生に決定した。

3. 新規入退会者

入会者 松本健義先生（上越教育大学）

退会者 鼓みどり先生（富山大学）

岡田匡史先生（信州大学）

本年度まで北陸2部会で担当校から次年度の担当校に郵送していた資料（段ボール2箱）の送付は今年で取りやめとする。福井大学美術講座に保管し、必要に応じて閲覧・貸し出しを行うこととする。

■その他

作成者： 福井大学 小笠原文

1. 北陸2部会の資料の取り扱い

【東海地区会】

日時

場所

出席者

IV 近畿地区・四国地区

【近畿地区会】

日時

令和5年6月18日（日）
13:00～15:30

場所

オンライン開催

出席者：全11名

奈良教育大学：竹内晋平
樋口健介
兵庫教育大学：前芝武史
神戸大学：勅使河原君江
京都教育大学：日野陽子
丹下裕史
西菌静
滋賀大学：藤田昌宏
和歌山大学：寺川剛央
永沼理善
大阪教育大学：谷村さくら

■協議事項

1. 今年度の新規全国理事の選出

2022 - 2023年度：谷村さくら（大阪教育大学）の継続と、2023 - 2024年度：竹内晋平（奈良教育大学）の新規選出が承認された。来年度以降の見通しとして、地区委員は輪番で担当（2024-2025年度は兵庫教育大学から選出）すること、および輪番のローテーション（大阪→奈良→兵庫・神戸→京都→滋賀→和歌山）について確認がなされた。

2. その他

地区会の会計管理についての確認がなされた。例年予算配分は68,000円であること（年度により変更の可能性あり）、昨年度は地区会がオンライン開催のため支出（請求）がなかったこと、等について情報共有を行った。

■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

1. 会員数、入退会者の確認について

退会者と入会者について報告があった。滋賀大学2名入会、奈良教育大学1名入会および1名退会、京都教育大学1名入会および2名退会。今年度会員数は大阪教育大学9名、奈良教育大学5名、兵庫教育大学6名、神戸大学2名、京都教育大学4名、滋賀大学4名、和歌山大学2名。今後の見通しを含め、各大学の現状を確認しつつ意見交換した。

2. 昨年度の全国大会（宮崎大会・オンライン）の報告

宮崎大会に関して、下記の項目について報告がなされた。

・9/16：日本教育大学協会全国美術部門役員会（部門）／大学美術教育学会理事会（学会）

・9/17：日本教育大学協会全国美術部門協議会（部門）／大学美術教育学会全国大会総会（学会）

3. 今年度の全国大会（香川大会）について

香川大会に関して、下記の項目について報告がなされるとともに、運営協力への依頼がなされた。

・日程：9月16日（土）、17日（日）

・開催方式：対面開催

4. 各大学からの報告

各大学より現況と課題、及びその対応等に関して、下記の項目等についての報告・意見交換等がなされた。

・アフターコロナにおける教育活動の状況

・募集定員などの現況

・受験者数（学部、専門職大学院ともに）の減少に関する動向と対応

・カリキュラムや入試方法の改正

・学部入試合格者（在籍者）の状況

・後任人事の滞りと非常勤講師任用による対応

・学部改組と取得可能免許状の見通し

・教員就職率向上の対策

・基礎研究費の減額と追加要求等の動向

・従来からの取組を縮小しているなどの事例

・実習棟の改修および仮移転による教育活動への影響

作成者：奈良教育大学 竹内晋平

【四国地区会】

日時

令和5年6月13日（火）
18:00～19:30

場所

Zoomによる

オンライン会議

出席者 全6名

香川大学：古草敦史
吉川 暢子

■協議事項

1. 令和5年度 四国地区全国委員選出について

協議の結果、香川大学の尹智博先生にお願いすることとなった。

2. 香川大会開催に向けて

香川大会の開催に向けて、開催大学の香川大学からの提案により、四国地区大学の役割等について協議を行った。

協議の結果、愛媛大学が口頭発表の司会担当の割当等、鳴門教育大学が大会の受付等、高知大学がポスターセッションの割当及び、当日の設営補助及び監督等を担当することとなった。

■報告事項

1. 各大学の現状

各大学の現状について報告を行った。

尹智博

愛媛大学：佐々木 昌夫
高知大学：金子 直正
鳴門教育大学：山田 芳明

■その他

1. 地区会構成大学について

地区会を構成する大学について意見交換が行われ、次のような意見が出された。

現在、四国地区会は、教育大学協会全国美術部門に加盟している愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学で構成されている。しかし、四国地区内の教大教には加盟していない大学にも大学美術教育学会に所属している研究者がいる。実際、今回の香川大会にお

いては徳島大学の佐原氏に多大な尽力をいただいている。

他方、令和5年度及び6年度の地区全国委員を引き受けてくださった尹氏は、教大教には加盟しているものの大学美術教育学会には所属しておられない。こうした現状を鑑みるに、地区会の構成大学の在り方や、地区会の位置付け等について見直しが必要になるのではないか。

作成者： 鳴門教育大学 山田芳明

V 中国地区・九州地区

【中国地区会】

日時

2023年6月17日（土）
13:00～14:40

場所

遠隔会議システム(Webex)
開催大学及びホスト：山口大学

出席者：全10名

広島大学：池田史志
一鍬田徹
岡山大学：赤木里香子
山本和史
島根大学：有田洋子
藤田英樹
山口大学：上原一明
中野良寿
平川和明
吉田貴富

■報告事項

1. 教大協全国美術部門・大学美術教育学会部門役員会・学会理事会の報告

（資料は、昨年度及び地区会前に配信済み）

[意見] 3学会の統合について。大学美術教育学会は、教大協に加盟している大学の教員は強制加入となっている。任意団体である他学会との統合は難しいのではないかと。教大協の会員であるのに大学美術教育学会に加入しない人がいる、と本部からの報告にあった。任意加入の学会と統合すると、この動きが加速するのではないかと。

2. 2022年度地区会計報告

島根大学から、関係資料の提示（事前配信済み）と共に会計報告がなされた。

3. 2022年度地区会計監査

出席者全員が確認し、了承を得た。

■協議事項

1. 2027年度全国大会の開催大学について

これまでの開催実績

1962年／岡山大学

1978年／広島大学

1987年／山口大学

1996年／島根大学

2005年／岡山大学

2017年／広島大学

2027年／中国地区？（山口大学？）

・現時点では開催地区も会場大学も確定していない。

・中国地区で開催するとなれば、

①近年の他地区同様、会場大学を決めても、地区で協力しあって実施する在り方を検討していく。

②ノウハウやマニュアルや基本形などが本部にあるのか問い合わせてみる。

③他の地区がどのように運営しているか情報収集をしてみる。

④本部に問い合わせをしながら、大会の準備を進めていく。

2. 中国地区会の会計について

・昨年度の地区会で「ひとつの大学が会計を複数年担当することを検討してみてもどうか」という意見が出たが、いくつかの理由により、今後も単年度で各大学が担当していくことが確認された。

・過去の会計資料の電子化がほぼ完了。

3. 遠隔会議システムについて

・当番大学がホストとして無料の遠隔システムが使用できない場合について検討され、各大学が使用している遠隔会議システムを確認した。

岡山大学：Teams（無料可能。手続きが必要）

島根大学：Teams（無料可能）

山口大学：Webex（無料可能。業務に限定）

教大協は業務）

広島大学：Teams（無料可能）

・今後の地区会も基本的には各大学が使用している遠隔会議システムを使用する。

作成者：山口大学 吉田貴富

【九州地区会】

日時

令和5年6月30日（金）
14:30～16:30

場所

Zoomによるオンライン開催

（主催：長崎大学教育学部）

出席者 全25名

福岡教育大学：千本木直行

松久公嗣

笹原浩仁

本田代志子

加藤隆之

佐賀大学：栗山裕至

熊本大学：喜久山悟

琉球大学：スプリー・ティ

トゥス

仲間伸恵

鹿児島大学：池川直

小江和樹

桶田洋明

和田七洋

清水香

宮崎大学：石川千佳子

幸秀樹

大野匠

大泉佳広

樺島優子

大分大学：廣瀬剛

藤井康子

村上佑介

長崎大学：牧野一穂

兼原啓二

中川泰

■開会あいさつ

開会にあたり、長崎大学の藤本登学部長より挨拶があった。実際には緊急事案が発生したため、学部長原稿を代読した。その内容は教員配置の少なさに伴う質保証の危うさをはじめとした様々な課題についての指摘であった。

■協議事項

1.九州ブロックにおける活動のビジョンを求めて

九州地区がどのようになっていくか、それに対していかに対応すべきかについて話し合われた。また、九州地区の部会費について現状を確認した。部会費については6年前より会員一人あたり5000円から3000円に減額されており、コロナ禍のなかでは徴収されていない。残額の実態から今年度も徴収しないという結論にいたった。この件については課題が山積しており継続して審議する必要がある。

最後に、今後の地区会を開催する大学について検討した。ローテーションは決まっているのだが、過去に鹿児島大学と琉球大学の順番を入れ替えたことがあった。結果として、今後も順番を入れ替えたままにすることになった。つまり、令和6年度が熊本大学、令和7年度が琉球大学、令和8年度が鹿児島大学、令和9年度が宮崎大学での開催となる（その後、大分大学、福岡教育大学、佐賀大学、長崎大学の順になる）。

■報告事項

1.教員採用の合格状況（就職先の都道府県）の情報共有（当日口頭）

都市圏など教員採用枠が増えるなかでの合格状況の情報共有を行うべく、各大学の現状について報告がなされた。

2.美術科所属の4年次生の教員採用試験合格者数（校種別・過去3年）について（書面）

近年、教員採用数は増加しており、中学校美術や高等学校美術の採用数も以前よりは増加している。各県の情報提供があった。

3.各県の教員採用試験（中学校美術および高校美術）の実技試験の内容（過去3年）について（書面）

コロナ禍の影響もあり、教員採用試験の内容もかなり変更されてきている。そこで、各県の中学美術、高校美術の教員採用試験に関する実技試験の内容について情報交換を行った。

4.学部・大学として実施している「体験学習」について（当日口頭）

近年、文部科学省が「体験学習」の充実を推進するなかでの、各学部・大学での取り組みやその実施状況と、コロナ禍によるそれらへの影響（継続、中断、中止等）について話し合った。なお、個々の教員がその授業等で個別に実施しているものは除いた。

5.今年度予定のオープンキャンパスの実施形態について（当日口頭）

この数年、コロナウィルスの感染状況に伴って、各大学ともオープンキャンパスの実施形態はリモートに頼らざるを得なかった。今年になって対面を復活させる傾向にあると思われるが、リモートの利点もあるとの意見も聞く。各大学の美術教室で、効果的なオープンキャンパス実施形態の工夫等について各大学の状況報告がなされた。

6.小学校課程の学生が、副専攻（教科）を決定する時期と、決定の方法について（書面）

某大学では、小学校課程の学生は、入学後すぐのオリエンテーションにて、副専攻の中学校教科を仮決定している（実質的な所属先の決定となっている）。毎年、小学校課程の学生の中で、美術科へ所属を希望する学生が少なく、学生の獲得に苦戦しているとのこと。他大学からも積極的に状況報告がなされた。

7.美術科科目に係る非常勤講師雇用の現状について（科目名・科目数・講師の居住地（旅費支給の有無）等）（書面）

人件費削減が進む中、非常勤講師の雇用も年々厳しくなっている。一方で、専任教員退職後の補充ができないため、主要科目においても非常勤講師を充てている現状がある。各大学の現状を把握し、今後の人事等計画の一助とするため、情報交換がなされた。

作成者：長崎大学 中川泰